

ゆらぎのある建築

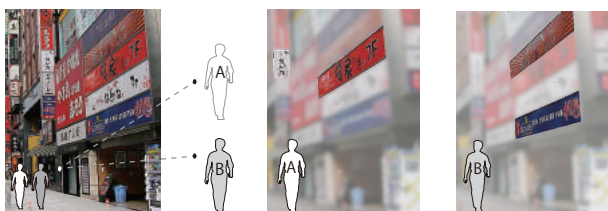
同一空間に多様な印象を与える伸暢壁空間

指導教員 吉松秀樹 教授 印

3BEB2129 小野里紗

1. 問題提起 - 複雑な街路空間 -

一見、建築ファサードは均一空間の繰り返しのように見えるが、街路を歩いている人にとっては同じ空間であるがそれぞれ異なった印象や興味を与える。一方、建築内部は単一的な印象で多様性や意外性にかけているように感じた (Fig. 1、Fig. 2)。



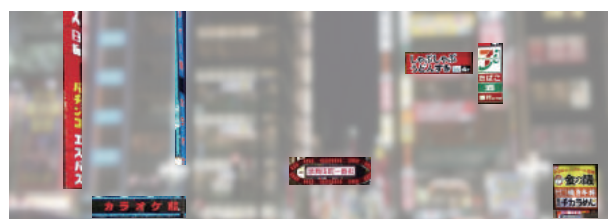
(Fig. 1) 建築へのファサード意識 (Fig. 2) 同じ場で異なる印象を受ける人の意識

2. 目的 - 多様な選択肢によって決定する場 -

街路空間を建築内部まで浸透させ、流動性・滞在性のある空間をつくりだし、ゆらぎによって人の感性が自由に発想できる居場所を生み出す。

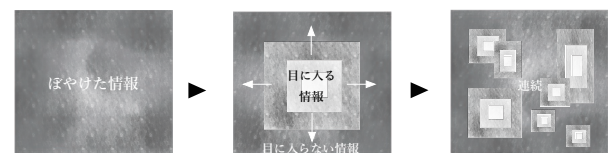
3. 調査・分析 - 意識のいくモノと意識のいかないモノ -

街路を歩いている際、目に入る情報と目に入らない情報があり、入り込んでくる情報は精彩で、入り込んでこない情報はぼやけている (Fig. 3)。



(Fig. 3) 目に入る情報と入らない情報

目に入ってくる部分から徐々に情報はぼやけみえなくなる。人によってその様子は変化し、異なった印象を幾多にも存在させている (fig. 4)。



(Fig. 4) 意識して見ている部分から徐々に見えない部分へ

4. ゆらぎによって異なる空間を生み出す

壁を極限に伸ばし、密度を変化させる。壁にゆらぎを与え空間にズレを起こさせる (Fig. 5)。



(Fig. 5) 均一な壁からゆらぎのある壁へ

4-1. 空間のバグの連続

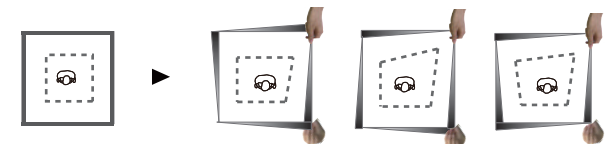
壁を伸ばすと厚みが異なる。異なった壁を連続的に配置してき均一空間をズラす (Fig. 6)。



(Fig. 6) 壁のバラケによる空間の厚さ

4-2. スケールの変化

壁の厚みに変化があることで、均一な配置でも空間のプロポーションが少しずつ変化する (Fig. 7)。



(Fig. 7) 壁の厚みによる空間変化パターン

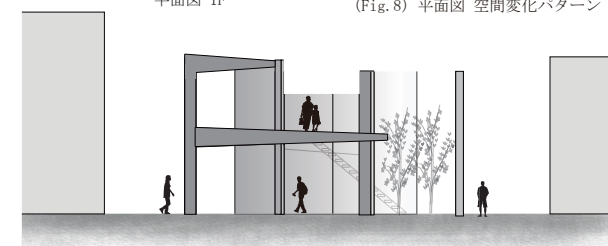
5. 提案 - 伸暢によってゆらぎを加えた内部空間 -

街路のように連続的に他の空間同士が繋がら合う関係性を伸暢壁によって生み出し (Fig. 8)、立体的な壁の動きによって各空間ごとに異なった独自の意外性のある空間へ変化させる (Fig. 9)。



平面図 1F

(Fig. 8) 平面図 空間変化パターン



(Fig. 9) 断面図 立体的な壁の動き